

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	八雲町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	地域・産業振興事業
3 事業の目的	アイヌの歴史・文化と二つの海の歴史が共生するまちづくりを目指し、アイヌ文化を生かしたコミュニティ活動、地域・産業の振興を推進することで、今を生きるアイヌの人々が誇りをもって地域で暮らし、その誇りが尊重されるまちづくりを目的とする。
4 事業の概要	(1) 地域・産業振興事業 ホタテ貝のアイヌブランド化事業 ○事業実施主体 八雲町内 ○事業の実施場所 二海郡八雲町内 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 ホタテ貝養殖漁業の要である稚貝について、地元産稚貝のへい死等により、安定的な生産に繋がりをうだけの確保が困難なことから、健全な稚貝を他管内から移入し、当地区海域に適合し、生残率が高く、異常貝の少ない良質なホタテ貝に育成できるか実証試験を3年間実施する。安定的な生産が確立された暁には、生鮮向け3年貝をアイヌブランドホタテ貝として生産を目指していく。 令和7年度は、昨今の海水温上昇等の海況変化も鑑み、7地区において稚貝移入実証試験を実施するとともに、令和9年度に生産されるであろう生鮮向け3年貝のアイヌブランドに向けた取組を進めていく。
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	(4-3) 観光振興その他の産業の振興に資する事業 ○ホタテ貝のアイヌブランド化 養殖ホタテ貝の水揚量を安定させるとともに、アイヌブランドホタテ貝を育成し、販売会等を実施することで広くPRし、八雲ブランドホタテの推進を図る。
6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	(1) 地域・産業振興事業 ○ホタテ貝のアイヌブランド化事業 養殖ホタテ貝の水揚量が安定し、アイヌブランドホタテ貝を育成、販売PRの促進を図ることで、ホタテ貝養殖漁業を営むアイヌの人々が誇りをもって生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現、共生する社会の実現に大きく寄与する事業であり、ホタテ貝の水揚量の安定化及びアイヌブランド化が進めば効果は高まるものとする。

(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	(1) 地域・産業振興事業 ○ホタテ貝のアイヌブランド化事業 地区に適した稚貝産地の選定、アイヌブランドホタテ貝関係Web閲覧数 【現状値】令和6年度 ー 【中間目標】令和8年度 稚貝移入元産地1地域以上の選定 【最終目標】令和11年度 Web閲覧数 22,000件/年間 成果目標は令和11年度に達成する見込み。
(3) 成果目標の確認方法	(1) 地域・産業振興事業 ホタテ貝のアイヌブランド化事業 KPIである噴火湾八雲地域に適した稚貝産地を1地域以上選定及びアイヌブランドホタテ貝関係web閲覧数について、実績値を公表する。 また、目標の達成状況等を検証し、改善点等を踏まえ、計画期間内の事業実施に反映させる。
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	八雲町は、平成17年に日本海側の熊石町と合併し、太平洋と日本海の両方に面する日本で唯一の町であります。現代の八雲町は、豊かな自然の中で営まれる農業、漁業を基幹産業とした、北海道渡島北部の中心都市として発展しております。 八雲町の歴史を振り返ると、太平洋側の八雲地域においては、明治11年に尾張徳川家による大規模移住があり、移住人と先住民のアイヌ民族がともに支えあってきました。 また、日本海側の熊石地域においては、江戸時代松前藩政下の時代から北前船文化とともに、アイヌ民族と交流があったとされております。 多様な自然と海岸景観が特徴である当町は、太平洋側の八雲地域では、「落部（おとしべ）アイヌ語で川尻に魚匂（やな）を掛ける所を意味する」「野田生（のだおい）アイヌ語で野や林を意味する」「遊楽部川（ゆうらっぷがわ）アイヌ語で温泉から下る川を意味する」日本海側の熊石地域では、「熊石（くまうし）アイヌ語で魚を干す物干し竿が多くある所を意味する」などアイヌ語由来の地名が数多く残されております。 また、アイヌ名「イカシバ」（偉大で何でもできうるを意味する）である八雲地域の旧落部村リーダー辨開風次郎（べんかいたこじろう）は、明治33年にアイヌ民族で初めて東宮御所に参内された人物であり、落部八幡宮の境内には明治天皇から拝領した一本松が植えられております。その他には、黒岩の奇岩（八雲地域）、奇岩雲石（熊石地域）などアイヌ伝説にまつわる景勝地も町内には数多く存在しております。 当町の基幹産業は農業と漁業であります。とりわけ八雲地域内の漁業は、ホタテ貝養殖漁業が中心であります。このホタテ貝養殖漁業は、漁家の約6割がアイヌの人たちが営んでおり、ホタテ貝養殖に携わる漁業者、漁業協同組合、及び水産加工業者等を中心に当町の大きな産業を形成しております。 近年のホタテ貝養殖漁業は、前浜の稚貝へい死等により安定的な養殖ホタテの生産が困難な状況にあり、非常に厳しい漁業経営となっております。 このような状況下、多くのアイヌの人たちが携わるホタテ貝養殖漁業を安定した漁業種として定着させる必要があり、漁家の生活を守るため、当地域の特徴のあるホタテ貝を養殖し、安定的な生産が確立された暁には、これらのブランド化を図り、恒久にわたりアイヌ文化の継承、アイヌの人たちの漁業経営安定化を図ることが重要と考えます。 また、八雲地域内浦地区においては、毎年アイヌ民族の先祖供養の伝統儀式「カムイ

	ノミ・イチャルパ」を開催しております。これは、アイヌの伝統儀式を現代に伝える重要なものとなっております。 これらの開催にあたって、現状は、アイヌの人たちの私有建物（倉庫）を借用しており、開催の度に中を片付ける必要があるため大変不便な状況であり、今後も長く儀式を続けていくには限界があります。アイヌ民族の伝統儀式「カムイノミ・イチャルパ」を今後も継続的に開催し、広くアイヌの伝統文化を広め、理解を深めるためには、囲炉裏等が整備されている当時を再現した施設で開催することが必要であると考えます。 また、アイヌ刺繍愛好団体を中心としたアイヌ民族衣装の制作、展示等を行うこと、アイヌ舞踊愛好団体を中心とした伝統舞踊を普及していくことで、地域住民の交流の場として位置付け、アイヌ文化の普及啓発に努めていくことも重要と考えます。
（２）施設等の管理運営体制	新たに建設する多機能型交流施設は、八雲町が管理する。
（３）アイヌ関係団体及び地域住民の協力	４－（３）の事業に関しては、八雲町アイヌ協会、八雲町漁業協同組合、八雲町と定期的に意見交換を行っている。

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	93,300,000	0	93,300,000	0
都道府県負担額	0	0	0	0
市町村負担額	23,325,000	0	23,325,000	0
民間団体負担額	0	0	0	0
計	116,625,000	0	116,625,000	0

(2) 支出の部

(単位：円)

経費区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
1. 文化振興事業	0	0	0	0
2. 地域・産業振興事業	116,625,000	0	116,625,000	0
委託料	116,625,000		116,625,000	0
3. コミュニティ活動支援事業	0	0	0	0
合 計	116,625,000	0	116,625,000	0
委託料	116,625,000	0	116,625,000	0